

J36c **SU UMa 型矮新星 PU Canis Majoris の 2009 年 superoutburst 期における
CCD 測光観測**

赤澤秀彦 (倉敷市立川辺小学校)、國富菜々絵、今村和義、能勢樹葉、田辺健茲 (岡山理科大学)

SU UMa 型矮新星 PU CMa は 1997 年に ROSAT により激変星として検出され、2000 年の outburst 期に SU UMa 型であることが確認された。

この天体は 2009 年 11 月 22.533 日 UT に、オーストラリアの R.Stubbings により増光が検出され、清田誠一郎氏により superoutburst であることが確認された。この星は 11 月 25 日より CCD 連続測光が赤澤の自宅にある船穂天文台の 28cmF6.3 の Schmidt-Cassegrain 望遠鏡 + CCD (ST-9XE) により開始され、superoutburst が終息する 12 月 8 日までの 9 夜観測した。その結果、前回の superoutburst 期よりも良質の光度曲線が得られた。

岡山理科大 (OUS) チームは、これらのデータを解析し、スーパーハンプの周期を求めてみた。11 月 25 日の光度曲線から、その値は 0.0575 日 (82.7 分) で、前回の superoutburst 期の値と大きな変化は見られない。観測ならびに O-C などの解析の詳細は当日ポスターで報告する。